

令和４年度  
「キラリまちづくりトーク（地域編）」  
議事概要  
（白川地区まちづくり協議会）

令和４年１１月２４日（木）

## 白川地区まちづくり協議会 「キラリまちづくりトーク（地域編）」 議事概要

日 時：令和4年11月24日（木）午後7時～8時50分

場 所：白川地区北コミュニティセンター

参加市民：13人

市出席者：6人（市長、まちづくり協働課長、商工観光課長、広報秘書課長及び同課職員2名）

1. 開会あいさつ（会長あいさつ）
2. 市長あいさつ
3. 第2次総合計画後期基本計画について（市長説明）
4. 地域まちづくり協議会からの活動状況の説明（明石事務局長説明）
5. 事前提出地域課題に関する説明・報告・質疑応答  
（※質問と回答は一括して行われましたが、テーマごとに分けて整理しています）

### 課題1 地域まちづくり協議会による情報発信の促進について

#### 司会

1つ目のテーマとして、地域まちづくり協議会では情報発信を行っています  
が、なかなか上手くいかないという現実があります。地域の人たちが白川地区ま  
ちづくり協議会を認知しているかどうか、知っているかどうかという高齢者の  
方は知っていると思いますが、若い方は「何それ？」という返事が返ってくるこ  
とが多いと想像します。認知度を上げるため、存在価値を向上させることをまず  
は進めていかななくてはならないと考えます。

当協議会では、令和4年9月からアンケートを取りまして、その結果がまとま  
りました。回答者数は全体で304名、人口の約42%です。そして、結果内容を分  
析してみると、「地域まちづくり協議会の存在を知らない」という回答が1割余  
りあり、少し残念ですがこれが現実です。一方、コミュニティスクールである学  
校運営協議会は平成30年にスタートしていますが、知っている人と知らない人  
が半々という結果です。アンケートの回答者の年代層は、どうしても60代、70  
代が半分以上を占めています。また、地域行事への参加について、「知っていて  
参加したことがある」、「知っているが参加したことがない」、「知らない」の3つ  
の選択肢で尋ねました。実際には、運動会が約45%の参加で、一斉清掃が半分を  
超えるという結果でした。バーベキューは子どもの父兄が中心だったため、高齢  
者の方は知らない方が多かったという結果が出ています。夏祭りもほぼ運動会と

同じ割合でした。敬老会は対象者が75歳以上のため割合としては少ない結果でした。最近始めた事業の炭焼きに関しては参加したことがないという回答が多く、パソコンに関しては知らない方が多いという結果で事業のPRが足りないということが反省の一つになります。さらに、情報発信に関する項目として、協議会のホームページの閲覧に関するアンケートを取りました。「毎日見ている」、「週に1回くらい」、「月に1回くらい」、「見ていない、知らない」という選択肢で集計したところ、「見ていない、知らない」という回答が多くあることが分かり、やはり情報発信のやり方、アプローチを考えていかなければならないということを実感しています。そして、最後に、地域まちづくり協議会への期待度を尋ねたところ、「期待している」、「まあまあ期待している」を合わせた割合は約85%で合格点かなと思いますが、一人も取り残さないというSDGsの信念からいくと期待していない人にもぜひ期待してもらえるように、運営委員全員でアプローチしていかなくはいけないと考えています。このようなアンケート結果を踏まえて、地域まちづくり協議会の認知度向上の対策を今後実行していく必要があると考えています。

そこで、各地域まちづくり協議会ではそれぞれホームページを作って情報発信を行っていると思いますが、市として、各地域まちづくり協議会の情報発信の促進に向けて、今後、どのような考え方があるかお尋ねしたいと思います。

具体的には、地域まちづくり協議会の活動の認知度の状況ということで、当地区の内容はご報告しましたが、他の地域まちづくり協議会の活動状況はいかがでしょうか？ホームページは、確かに22の地域まちづくり協議会が個別のホームページを作っていますが、更新頻度などそれぞれ差があるような気がします。やはり月1回や週1回など更新していくように、強制はできないと思いますが、行政として促すことも情報発信としては大切かと思いますが、今後の対応などお尋ねします。

#### 市長

ありがとうございます。先程のアンケート結果や資料について、綺麗に整理していただいて敬意を表します。

地域まちづくり協議会は、前身がご存知のコミュニティという組織であり、そこからさらにいろんな分野における総合的な仕組みとして機能していただいております。先程ご紹介いただいた白川地区のアンケートにありました地域まちづくり協議会に対する理解というのは、ご当地は市全体からすると高い方であろうと認識いたしております。地域まちづくり協議会の活動が市民にどれだけ認知されているかという視点での市全体のアンケートは現在実施しておりませんが、亀山市総合計画の後期基本計画を策定する基礎資料として、令和2年度に市民アンケ



ート調査を1,200名の方に実施させていただいて、「1年間の間に地域活動に参加した」と答えた方の割合は53%でございました。ご当地は、明星祭や運動会などいろんな行事を精力的に展開していただいております、「知っているが参加していない」という行事もあったかと思いますが、比較のご当地は多くの方が認識いただいて、ご参加いただいているのではないかと拝察いたします。

そこで、今回、問題提起をいただきました地域まちづくり協議会の情報発信ですが、各地域まちづくり協議会では、広報紙の発行やホームページなどで工夫を凝らして情報発信を展開いただいております。市も、市ホームページに各地域まちづくり協議会のホームページのリンクや地域まちづくり計画を掲載させていただくほか、ケーブルテレビでの行政情報番組においても各地域でのイベント等を随時放送しているところではありますが、このあたりはもっと充実強化させていく必要があると考えています。私もご当地のホームページを拝見させていただきましたが、全市的に見た更新頻度としては、白川地区のホームページが断トツの1位です。1年間の更新回数が164回という数を把握させていただいておりますが、その次が関南部地区の50回となっています。年間で更新が無い地区や数回という地区があることを考えますと、ご当地ではホームページを適時適切に更新し、住民の方にお伝えいただいていることは間違いのない事実でございます。一方で、アンケート結果で、地域の方がご覧になられていないという課題については、本日、地域まちづくり協議会の役員の皆さんもお揃いですし、もう少しこれが浸透できるような取り組みが必要であろうかと思っております。

それから、広報紙や会報誌について、22地区の中では発行されていない地域もありますが、ご当地は年2回発行していただいております。全市で見ると、例えば、昼生地区は、年に46回発行していただいております。地域まちづくり協議会内にある部会ごとに情報を独自に出してみえます。それ以外の場合もあるのかもしれませんが、協議会全体としての広報紙とそれぞれの分野別のものをこまめに出しているという形態が昼生地区は特徴的であろうかと思っております。他の地区でも、40回まではいかずとも、加太地区は10回、神辺地区は9回などがあります。若い皆さんは、パソコンやインターネット、スマートフォンの馴染みが深いかもしれませんが、折しもご当地ではパソコン教室を始めていただいたということで、紙での会報誌を工夫することであろうかと思っておりますし、ホームページなどと抱き合わせて情報発信を連動させることであろうかと感じています。

地域まちづくり協議会の認知度を向上させるということにつきましては、存在価値が高まって活動への参加に繋がるということでもありますから、市としては、先程申し上げましたように、行政情報番組で各地域まちづくり協議会の皆さんの活動を紹介することや、令和3年度には広報かめやまの「まち協りレー紹介」のコーナーで各地域まちづくり協議会の特徴や活動内容を紹介させていただいたと

ころです。市としては、そのような広報の促進に向けた支援の取り組みをしっかりと考えてまいりたいと思っています。情報発信は大事でありますので、地域まちづくり協議会としての創意工夫、そして、市としても各地区の地域まちづくり協議会の活動が上手く結果に繋がっていくようなPRや側面支援を続けてまいりたいと考えています。

## **課題2** 地域まちづくり協議会による独自の活動の支援について

### **司会**

次に2つ目のテーマです。白川地区の隣接には工業団地があります。工業団地に所在する企業の方を地域の行事に招くために、地域まちづくり協議会が単独で企業へ訪問すると門前払いになってしまうかもしれませんので、行政がパイプ役になっていただいて、参加が可能な企業の方に協議会の行事に参加いただくことで、地域が活性化する一つの材料になれば地域も盛り上がるのではないかと考えています。行政に企業との橋渡し役やパイプ役になってもらえるのかという点について伺います。

### **市長**

工業団地の各企業との交流に向けた橋渡しやつなぎは大切なことだと思っています。ご当地の特徴としては、名阪亀山・関工業団地、それからテクノヒルズの企業などと近い関係にありますので、ぜひうまく繋がってまいりますようにと思っています。市としては、企業誘致の段階から協力関係にあって、できる限り地域との連携や協働を各事業所をお願いをしてくているところです。また、雇用面についても、地元雇用に最大限配慮いただくようなことで今日まで進めてきております。

各企業におかれては、地域貢献や地元交流などを積極的に行っていただいているところもあります。例えば、能褒野地区の工業団地では工業会が存在し、地域住民の方との接点があったり、夏祭りを地域に開放して従業員だけでなく地域の皆さんも一緒に参加したりというような取り組みがあります。地域住民との交流が深まるような機会や社員の方が職場に近いところで住んでいただく定住促進に繋がるような機会は、地域にとって大事であり、発展に繋がると思いますので、ぜひそういう取り組みについて市も橋渡しやお手伝いができればと思っています。市の商工観光課商工業振興グループが担当部署となっており、いつでもご支援させていただくことができますので、気軽にご相談いただければと思います。



### 課題3 地域まちづくり協議会と市との連携強化について

#### 司会

テーマ3つ目は、地域まちづくり協議会と市の連携強化です。現状、協議会と市の連携ではもう少し応援してほしいなと思うところもあり、今後、もう少し深い絆を強めて、我々も地域住民に強く発信したいと思っています。白川地区にも、市職員OBの方もみえますが、なかなか協議会の役員として入ってきていただけない現状があります。人材確保や担い手不足は、どこの地域まちづくり協議会でも一緒の課題だと思いますが、そういった課題をどうやって解消していくか、地域を持続可能なものにするためには、担い手を育成していくことが大事かと思っています。そういう中で、行政として、今後の取り組み方についてお尋ねしたいと思います。

#### 市長

地域まちづくり協議会と市との連携強化について、今後の方向性も含めてということですが、まず、市では地域担当職員制度という制度を設けまして、地域まちづくり協議会の立ち上げの時期には、各部署の職員が兼務して1人1地区を担当する体制をとってまいりました。そして、令和元年度にまちづくり協働課の職員を配置いたしまして、1人の職員が複数の地区を担当する体制に見直しを行ったところです。これにより、会議等への出席だけではなく、複数地区の特徴や活動内容を具体的に把握することにより、課内で情報共有を行うことができ、日常的な相談に対してもより迅速かつ的確な情報提供や助言を行うことができるようになったところです。ただ課題は抱えておりますので、課題解消に向けた取り組みを進めてまいりたいと思います。現在も担当職員が参画させていただいておりますが、状況に応じて可能な限り地域にお伺いをさせていただいて、より一層顔の見える関係づくりに努めて、地域まちづくり協議会の活動の支援に繋がるようにしてまいりたいと思います。

それから、連携強化につきましては、私どもの組織のしくみとして、古くからの課題である、行政の縦割りというものを解消していきたいという考えがあります。地域で抱えている課題もさまざまな分野があり、市の組織においてそれぞれの専門分野が上手く繋がって、一つの課題解消だけでなく、周辺の課題もトータルで解決できるような庁内体制を築いていかなくてはならないと思っています。その意味で、日常的には地域まちづくり協議会と関わりを持つまちづくり協働課が全体の連絡調整をしっかりと果たさせていただくものと考えており、昨年度、庁内体制の整備を進めさせていただきました。今後、庁内体制が機能しているか確認するとともに、連携をより強化させていただく必要があると考えています。

地域まちづくり協議会においては、それぞれの分野で、市の組織との日常的な関わりや課題解消に向けた関係はあると思いますが、一つの課題は解決できても、別の課題、さらに別の課題というものが存在し、それはご当地に限らず、すべての地域で起こっていると思います。市もそれをしっかり認識させていただく中で、市の組織が連携や調整しながら、そういう問題に対応していくような体制に進化をしていかななくてはならないと思っています。古くて新しいテーマではありますが、取り組みを充実させていきたいと思っています。

さらに、問題提起をいただきました地域の担い手の発掘・育成については、ご当地をはじめ市全域での大きな課題と認識しています。地域まちづくり協議会の組織強化にも繋げられるように、地域担い手研修を立ち上げ、開催させていただいています。受講者の皆さんには、地域まちづくり協議会の役員等に就任していただいたり、地域まちづくり協議会のワークショップの開催を支援したりしていただいています。現実には、現役をリタイアされたシニアの皆さんが中心になり、各地区を引っ張っていただいております。後継者の問題や中間・若手の参画が少ないなど全市的に共通の課題がございます。そういう意味でも、次に地域を引っ張っていく中年層とかリタイアされてからではなく現役世代の人に地域との関わりを持っていただけるような取り組みを強化していってもらうということがあろうかと考えます。その点では、ご当地は700人弱という人口で、顔の見える関係があり、小学校がコミュニティの中に核として存在し、子どもたちから保護者、現役世代、そしてシニア世代の皆さんまで平素から世代を超えた繋がりが他の地区に比べて存在していることはまさに特徴だと思いますので、ぜひそれは生かしていただけるような取り組みや創意工夫をお願いしたいと思います。本日は白川小学校の校長も出席いただいております。こういう関係も素晴らしいと思います。まさにコミュニティスクールの一つのモデルを白川地区で作り上げていただいていると思いますので、これを強みに各世代の多くの方が参画し、そこから地域の担い手となる人材が出てきていただくような方向へ皆さんの心を合わせて進めていただければ素晴らしいと思っています。

先程、後期基本計画で申し上げました「まち紡ぎプロジェクト」のさまざまな取り組みをもって、地域まちづくり協議会をはじめ自治会でも、地域福祉や防災、防犯の取り組みを進めています。地域の横のつながりや世代のつながりが無くなってしまえば、そういう課題が解決できない、住みにくいまちになってしまうということは避けなくてはならないと思います。コロナを乗り越えて早期にこの状態を克服して、平穏な今までのような人の繋がりを大事にできるような地域づくりができるように我々もともに頑張っていきたいと思っています。



## 6. フリートーク

### 参加者 A

工業団地との交流ですが、このコロナ禍で工業団地の企業へ行っても良いでしょうか？世の中では、マスクを取ってもいいとか観光地に行ってもいいとか言われていますが、時世を踏まえて、失礼に当たらないか心配します。地域の方でも、イベントに対して少し敬遠されているような感じもします。2～3年前からこのような交流の機会を考えていたのですが、コロナ禍でイベント等も中止ということで、会社にも迷惑をかけるといけないと思っていました。イベントが再開し、日常が戻りましたら、ご相談に行きますのでよろしくお願いします。小学校の運動会など、行事に参加していただくことでいろんな話ができると思いますし、地区内には休耕地がたくさんあるので、そこでいろんな農作物を作ったりして、ワイワイ言いながらコミュニケーションを図るというのが一番大事かなと思います。

### 市長

かつては、企業との交流の機会もさまざまあったのですが、時代も変わってきて、かつ、コロナ禍でなかなかそういったところが少なくなってきました。今からの時代のつなぎ方について、企業の事情にもよると思いますが、少し工夫してこの白川地区と工業団地の企業にとってどういった仕組みが入ることが地域にとって良いのか、企業にとってもメリットがあるのかということを踏まえた関係が作れると良いと思います。機会があれば、例えば、地域まちづくり協議会の役員の方々と企業の方との会のようなものを積み上げていただき、企業の対応に上手くマッチするような仕組みを意識的に作っていただくということはあろうかと思いますので、またご相談に乗らせていただきたいと思います。

### 参加者 A

来年の1月に新しい図書館が開館しますが、それまでに、学校関係者やまちづくり協議会の関係者の見学というのはできないでしょうか。

### 市長

新しい図書館のPRを兼ねて、いろんな取り組みを集中的に行う計画をしています。本日は、教育委員会事務局の職員が不在で詳細をお伝えできずに申し訳ありませんが、オープン前になるか後になるかは分かりませんが、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思います。



#### 参加者 B

私は、消防団の分団長とスポーツ推進委員、まちづくり協議会の会報委員と三刀流をやっていますが、皆さんに知っていただけるようにと見える活動を意識しています。今日も持ってきたのですが、白川地区のスポーツ大会の新聞を作ったり、先日の壮年ソフトボール大会で準優勝したということで新聞を作ったりして地区内で配布しています。若い人はスポーツや体育に興味があるようで、興味のないものには参加しないと感じています。消防団員もスポーツが好きで、壮年ソフトボール大会も 10 人制でチーム内の 8 人が消防団員という構成でした。今後の白川地区のまちづくりを考えると、何か魅力のある活動をしていかないといけないと感じています。先輩たちが作ってこられたまちづくり協議会ですので、何とか引き継ぎたいと思っておりますが、その悩みが私の中にあります。

若い人が今興味のあることはコストコです。コストコがどこにできるのかと聞かれるのですが私も知りません。コストコの予定地がどのあたりか教えていただけますでしょうか？そして、コストコができると県内や県外からもたくさんの人が見えるので、交通渋滞もあると思います。地域の方からは心配の声が出ております。集落内の道も抜け道として渋滞するのではないかという心配もあるので、それも今後の課題ということで市へ自治会から要望があると思います。

#### 市長

コストコについては、ぜひ立地をいただきたいという思いで市も現在調整を進めております。サンシャインパークの前の県道を挟んで南側の里山、この一角が候補地であります。これまでの工業団地は造成された土地へ企業が来ていただくということでしたが、コストコはあの里山にということで現在は考えておられるわけですが、当然、土地の取得などいろんな課題があるかと思えます。現在、このエリアで取り組みを進めていただいているということでもあります。土地の所有者の了解や規制上の問題もあるかと思えますので、そういうものが解決していく取り組みが前提条件ですが、立地協定の段階では、これから 2 年から 4 年の間で創業させたいという社長の方針が出ていますので、市も県としっかり連携させていただいてサポートしていきたいと思えます。

一方で、安全対策や渋滞対策という点は我々も懸念をすることで、これらの対策を万全にとっていく必要があろうと思えます。市街地へ向かう東西に延びる県道、それから国道 1 号から白川地区へ繋がる縦の筋を使って、広域からお客様に来ていただくことが想定されます。そうすると、亀山インターや亀山パーキング上り線の ETC スマートインターから県道への接続、また名阪国道を通過して西から来て国道 1 号へ下りた車の捌き方などさまざまな課題が多いと思えます。現在、市も対策に向けた調整を国交省や県、中日本高速道路などに行っておりますし、

国や県に実施していただく必要があることもありますので、そういうものが解決できないと立地が後ろにずれていくこともありうると思いますので、しっかり地元のご懸念も踏まえて対応させていただきたいと思います。

それから、コストコは会員制の商業施設で、従来の商業施設とは少し違うということで、先行して全国で立地されている場所で蓄積されたさまざまなノウハウ、例えば会員の皆さんのイニシャルなどによってお店に来ていただける日を制限、コントロールするなどのノウハウをお持ちで、実際にそういった取り組みをされてみえるところがあると聞いています。

したがって、ハードとソフトの両面で総合的に対策が駆使されて、地域での渋滞などが避けられるように、県と連携もさせていただき進めていこうと現時点では取り組んでいるところです。もう少し先へ進んでいく中でいろんな動きがあろうかと思いますが、現在は、土地の取得や事前の取り組みをいただいているところであり、行政は、立地後の交通対策や渋滞対策に向けて、国や県などと連携して対応させていただくという状況です。

#### 参加者C

亀山市長がマニフェスト大賞を受賞されたということが新聞に出ておりました。おめでとうございます。

それから、亀山ブランドの高島屋での催事の件が新聞に載っていましたので、今日早速行ってきました。催し物の会場でしたので知らない人もたくさんいたと思いますが、立派なコーナーでびっくりしました。亀山市も頑張っているなと思いました。知らない人もみえるかと思いご報告をさせていただきます。

## 7. 閉会あいさつ

#### 市長

ありがとうございました。

皆様には大変なご苦勞をいただいて、白川地区の地域づくりや人づくりにご奮闘いただいておりますことが改めてひしひしと伝わってまいりました。課題はいくつかありますが、皆さんの英知が結集されて、地域が住みやすい状況になればと思います。複雑な時代のため、いろんな立場、いろんな思いを持たれた方たちがおみえでなかなかまとまらなかったり、評論家や、自分事のようになかなか捉えられなかったり他人事のように少し冷めた方々もおられるような時代になりました。都市部では、自治会に入らないとか自治会自体も作らないという地区がたくさんありますが、本市は地域の皆さんの絆でなんとか乗り越えていけたら素晴らしいと思っておりますので、私どもも今後しっかり努力を重ねてまいります。



白川地区が益々ご発展いただきますとともに、白川地区まちづくり協議会の皆さんが一層ご健勝でご活躍いただきますことを心よりお祈り申し上げて最後の挨拶にさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

午後 8 時 5 0 分頃 終了

